



川崎市議会議員

本間 賢次郎 ケンジロウ

市政レポート No. 36 (令和2年10月号)

未来へ働き続ける、想いを「ツナ」ぐ。
イメージキャラクター：本マグロ ツナジロウ

事務所 〒210-0834 川崎市川崎区大島 3-14-17

TEL044-742-8072

FAX044-211-1081

ごあいさつ



9月1日に開会した令和2年第5回定例会の冒頭にて、私が6月の議会で提案致しました新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための「サーマルカメラの市内施設導入について」が補正予算として計上され、この度、市内市立学校（小学校・中学校・高等学校・特別支援学校）全175校に導入することを可決致しました。予算額は1億683万8千円。先月25日に入札公示、今月9日に申し込みを締め切り、11月4日に入

札予定とし、12月にかけて設置というスケジュールにて実施致します。

新たな時代の都市づくりに向け、 環境先進都市としてのノウハウを市民生活へ！

9月23日に行われた決算審査特別委員会・環境分科会において「スマートシティ推進事業費」について質疑を行いました。スマートシティとは、環境に配慮した持続可能な社会の実現に向けた土台となる考え、取組であり、川崎市では平成27（2015）年に「川崎市スマートシティ推進方針」を策定し、その後「川崎市地球温暖化対策推進基本計画」に統合し、現在は環境局が中心となって取り組みを進めています。そこで、私、**本間ケンジロウ**は、ウィズ・コロナの時代を迎え、これまでの社会の価値観などが変わり新たな生活様式へと移る中だからこそ、新たな時代の都市づくり、市民の生活環境について改めて考え実行する絶好の機会と捉え、スマートシティに関する取組をこの度の質問のメインテーマに掲げました。

環境に対する意識は世代や地域を問わずに向上し、またその考え方や取

り組みは多岐に渡ります。私たちが日々の生活を送るにはエネルギー問題は根本的な課題であり、環境施策がこれからのまちづくりや生活の中心に存在することは論を俟たないと言えるでしょう。川崎市においてもスマー



↑臨海部に広がる大規模太陽光発電所

トシティの取り組みの中心的役割を担う部署を環境局とすることは必然的ではありますが、冒頭のとおり、この取り組みは「環境に配慮した持続可能な社会の実現に向けた土台となる考え」であり、その概念はあまりに大きく、全庁横断的に

共通概念としてあらゆる事業の前提的なものとしなくてはなりません。さらに、スマートシティを実現していくには、ICT（情報通信技術）やビッグデータ、AIなどの技術を活用することが必要不可欠です。今後の当事業の推進にはこの分野が大きなカギを握ると言っても過言ではありません。ICT等の取り組みを統括する部署は総務企画局にあり、同局にもリーダーシップが求められます。しかしながら今回の質疑において、庁内の連携や情報の発信力が不足していること、そして、環境問題についての意識こそ高いもののスマートシティの概念を共有し浸透しているとは言い難い状況が明らかになりました。

川崎市は公害の街と言われた歴史を乗り越え、今では世界に胸を張ることのできる環境先進都市となっています。市内において環境関連の技術開発を進める企業等も多く、次世代型の技術への研究についての勉強会等は活発に行われています。先述のとおり、ウィズ・コロナの時代を迎え、新たな都市づくり、市民の生活環境づくりに向け、今こそ当事業の加速、強化を進めるタイミングです。これまで培ってきたノウハウを市民生活へと落とし込み、新時代の生活を豊かにする技術を市民の皆様を活用して頂けるように取り組むべく、庁内意識の改革や体制づくり、データ等の利活用に向けた取り組みの強化、予算の編成や執行のあり方について意見・提言を行い、今後も新たな時代に相応しい都市づくり、快適な市民生活の環境の構築に全身全霊を注いで参ります。